

平成29年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 4 - 10
事務事業名	小松島南部地区都市再生整備事業			担当課係	まちづくり推進課 高速道路・街路担当
総合計画上の位置付け	政策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		記入担当者	
	基本目標	2. 快適な暮らしづくり		内線等	
	施策	2-1 快適な生活・都市基盤の整備		E-mail	
	基本方針	2-1-1 道路・交通網の整備			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	7 都市計画費
	目	5	高速道路対策費	事業	4 小松島南部地区都市再生整備事業
開始年度	平成28	年度	根拠法令・要綱等	小松島南部地区都市再生整備計画基本構想	

事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市民及び道路利用者（主要地方道阿南小松島線、四国横断自動車道等）
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 四国横断自動車道の整備が本格化する中において本市南部に新たに高速道路へのアクセスとなるインターチェンジを設置することを見据え、立江・榑瀨をはじめとする南部地区における新たなまちづくりの創造に向けた取り組みを進める。
事業の内容 （内容・手法等）	（こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 四国横断自動車道へのアクセスとなる新たなインターチェンジの設置により、本市の南部地区における農林水産物の販路拡大や新たな雇用創出などにつなげる取り組みを進める。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 四国8の字ネットワークの一部を形成する四国横断自動車道の開通を見据え、立江榑瀨地区への新しいサービスや個性豊かで多様な価値の提供などが期待される地域活性化の拠点施設の整備をはじめ、地域のまちづくりに必要不可欠な地域活性化インターチェンジの設置に向けた取り組みを行う。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	単位		H28	H29	H30	H31		
	目標							
	実績						四国横断自動車道「阿南～津田間」の供用開始年次、立江榑瀨インターチェンジの連結許可が未定	
	達成度							
活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H28	H29	H30	H31	指標の説明
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		28年度決算	29年度決算	29年度予算	30年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	0	5,818,840	5,873,000	35,573,000	
	財源内訳	国県支出金		0		
		地方債		0		
		利用者負担		0		
		一般財源		5,818,840		
	B 人件費 ①×②	0	3,817,076			
	職員平均人件費①		7,634,152			
従事した割合②/人		0.50				
A + B		0	9,635,916			
単位コスト	活動指標の説明				備考	
	活動指標1 単位当たりコスト				平成28年4月1日現在 人口39,358人	
	市民一人あたりのコスト	0	248		平成29年4月1日現在 人口38,817人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 国においては、気候変動の影響により激甚化・頻発化する災害や切迫する巨大地震等から国民の生命と財産を守る「被災地の復旧・復興」、「国民の安全・安心の確保」、また、成長と分配の好循環の拡大に向けた「生産性の向上と新需要の創出による成長力の強化」及び「豊かで活力ある地域づくり」の4分野に重点化し、施策効果の早期発現を図る。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 四国横断自動車道の開通は、経済・産業・観光・文化等に大きな活力を与え、その整備効果は計り知れないものと期待を持っているが、その実現には立江・榑渚地区から高速道路へのアクセスは必要不可欠である。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	本市南部地区の個性ある農水産物拠点と高速道路ネットワークでつなくことで、広域的な経済・生産圏の形成を促進する。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	高速道路ネットワークの形成に向けて、生産性革命の推進により、人口減少下でも生産性向上による持続的な経済調整を実現するとともに、高速道路の効果をも十分に実感できない地域の隅々までその効果を波及させる必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	本事業の効率的かつ円滑な実施を図るため、限られた財政資源の中での事業執行に向け、地域のニーズを踏まえつつ、必要性の高い事業への重点化を進める。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	立江・榑渚地区への新たなインターチェンジの設置に向け、既存施設の活用を図りつつ、生産性向上をはじめとしたストック効果が最大限発揮されるよう戦略的な取り組みを進める必要がある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	高速道路を活用した新たな価値の創造の実現に向け、まちづくり方策を検討する有識者会議を開催し、基本的方向性を議論した。また、国・県との連携強化も行うなど、高速道路へのアクセスとなる新たなインターチェンジの設置に向けた協議が進んだ。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	国・県など関係機関及び地区連絡協議会をはじめとする地元関係者等との連携強化を図りつつ、立江・榑渚地区への新たなアクセス道となるインターチェンジの早期実現はもとより、地域活性化につながる拠点づくりに向けた取り組みを進める。特に、地域振興拠点施設の計画にあたっては、主要地方道阿南小松島線の交通量だけでなく、高速道路の交通量を加えた施設計画となるよう、国・県との協議を進める必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由	
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点			
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	72		
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点			
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下			2
市南部地区のまちづくりに寄与する重要な事業であるが、南部地区のみではなく、高速道路に関連した市全体にその効果及び事業であるため、地区対策協議会や地元関係者とのな一層の連携強化が必要である。						

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	高速道路をはじめとする社会資本が機能することによって発現する生産性の向上や民間投資の喚起等のストック効果を重視した社会資本整備を戦略的に推進していく必要がある。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	